

Connecting the Future



Ubiquitous AI Corporation

2020年3月期 事業説明会

株式会社ユビキタスAIコーポレーション

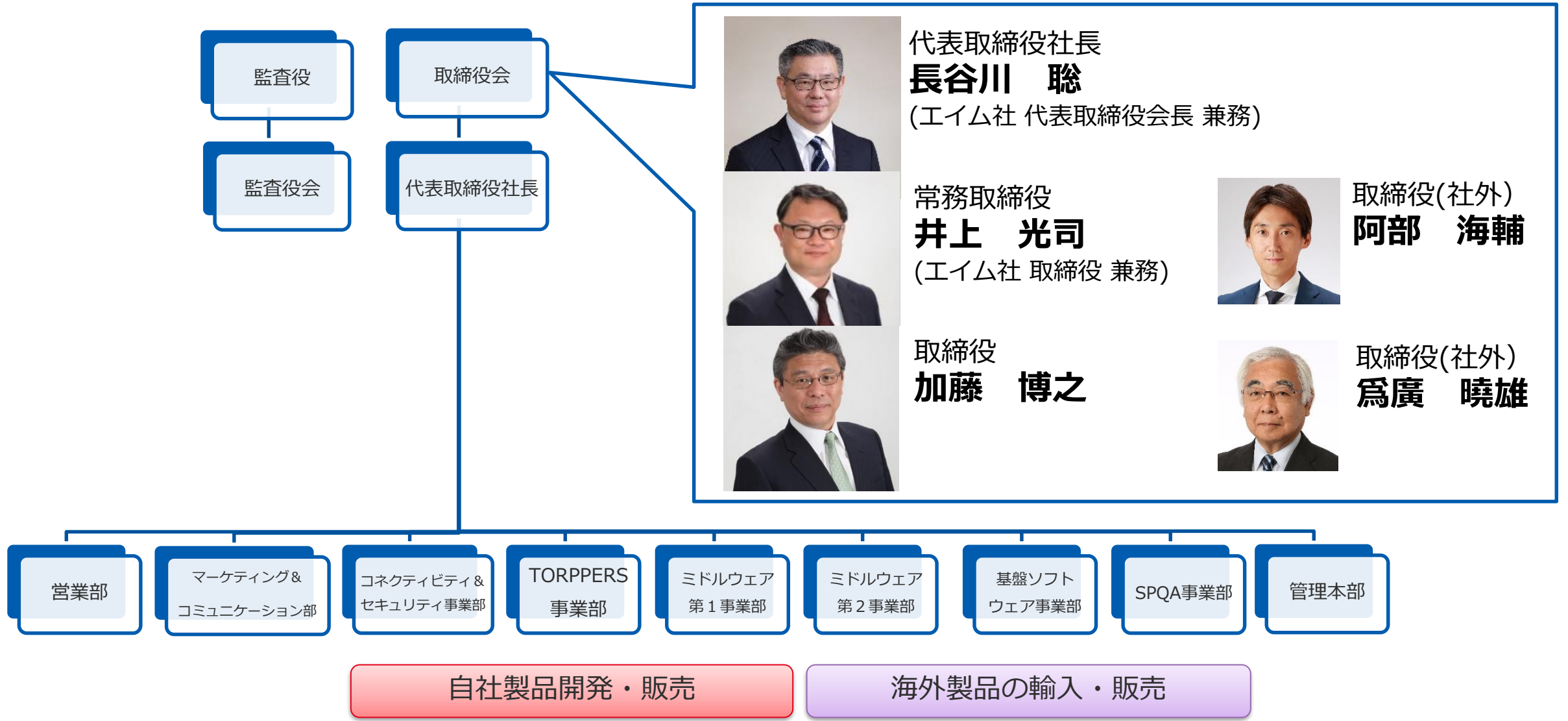
代表取締役社長 長谷川 聡

2019年6月21日

Contents

- 新年度の組織体制と経営スタッフのご紹介
- 2019年3月期の決算ハイライト
- 当社グループをとりまく事業環境と取組方向性
- 中期経営計画(2020年3月期～2022年3月期)の確認
- 2020年3月期事業計画概要
- 新規取り組み事業 トピックス

新年度の組織体制と経営スタッフのご紹介



2019年3月期 決算ハイライト

■ 業績予想比

(単位：百万円)

	実績	修正後 業績予想	増減額	期初 業績予想	増減額
売上高	2,406	2,362	44	2,427	△20
営業利益	77	4	73	4	73
経常利益	101	21	80	19	81
当期純損益	64	△29	93	△28	92

– 前期の営業黒字化に続いて、当期純利益の黒字化を達成

- 期初の売上予想に若干及ばずも、修正予想比では予算達成
- 売上原価、経費の抑制等により営業利益は予想に対し、73百万円増加

– 事業別サマリー

- コネクティビティ&セキュリティ：大型受託案件、車載セキュリティ関連案件の失注により売上未達
- 組込みソフトウェア：高速起動製品の収益が安定推移、新規引き合い、既存大口顧客ロイヤリティが好調
- ソフトウェアディストリビューション：既存顧客ロイヤリティ好調に加え、キャリアグレード製品で大口案件獲得、開発品質向上ツール製品も順調に推移、ドライバーモニタリング製品引き合いが好調
- ソフトウェアサービス：車載機器向けデータコンテンツライセンスが堅調推移、受託引き合いが好調

2019年3月期 決算ハイライト

組込み分野への注力、「**選択と集中**」により、2期連続営業黒字を達成、事業ポートフォリオの分散による安定した収益基盤の整備により、中期計画3年目の目標をほぼ達成

- ・ソフトウェアディストリビューション・ソフトウェアサービス事業の安定した収益と、組込みソフトウェア事業の収益性向上により、収益性を大幅改善
- ・エーアイコーポレーション社との合併によるシナジー強化を実現

コネクティビティ&セキュリティ事業

売上高 224百万円

組込みソフトウェア事業

売上高 460百万円

ソフトウェアディストリビューション事業

売上高 1,319百万円

ソフトウェアサービス事業

(グループ企業：エイム社)

売上高 403百万円

2019年3月期 ハイライト

2018年7月1日 ユビキタス、エーアイコーポレーションを合併
株式会社ユビキタスAIコーポレーション



Ubiquitous AI Corporation

Connecting the Future

テクノロジーを通じて

「お客様」、「社会」、「社員」の、未来をつなぐ

Ubiquitous AI Corporation (UAC)

www.ubiquitous-ai.com

会社・事業運営のシナジー最大化

- 販売力強化（営業活動効率化、製品組み合わせ）
- 開発部門一体化による開発加速
- 製品シナジー加速（共同開発、ソリューション化、製品企画力強化）
- 統合によるコストの最適化

オンリーワン企業の実現

- 自社製品の企画・開発力と海外製品の調達力を同時に持ち合わせたオンリーワンの組込みソフトウェア企業を実現
- 新たな価値を生み出す技術企業へ

2019年3月期 ハイライト



- ・累計2千万ライセンスを突破（3年間で1千3百万増）
- ・車載機器以外の採用も増加
- ・対応プラットフォーム拡大(x86, FPGA)
- ・パートナー連携による海外拡販体制

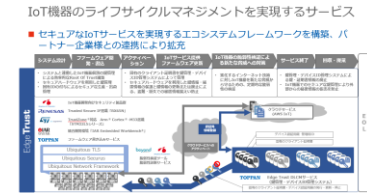
海外パートナー開発連携



- ・Beyond Security社との脆弱性検証ツール「beSTORM X」共同開発
- ・ComboConnectにIcon Labs社Floodgate Firewallを搭載

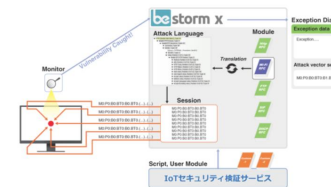
IoTセキュリティへの新たな取り組み

Edge Trust



- ・凸版印刷との協業でセキュアなIoTサービスを実現するソリューションを事業化、組込み開発からサービスまでワンストップ提供
- ・ルネサス エレクトロニクス、STマイクロエレクトロニクス等との連携により高度なセキュリティ開発環境を実現

IoTセキュリティ検証サービス



- ・be STORM X を活用したIoT機器のセキュリティに関する検証をサービスとして展開
- ・通信プロトコル・セキュリティ規格に精通したエンジニアによるハイレベルなサービスの提供

修正中期経営計画に対する結果

ユビキタスAIコーポレーショングループ 組込みソフトウェアNo.1ベンダーへ

2023年3月期までに
売上高3,500百万円、
営業利益率10%以上、
ROE10%以上を達成

2019年3月期
2,427(4)→**2,406(77)**
連結営業利益確保→**売上わずかに
未達も営業利益大幅増**

※ 売上（営業利益）
単位：百万円

2018年3月期
計画：2,470（▲20）
実績2,349(4)
連結営業利益確保

- 構造改革と組込みソフトウェア事業注力「選択と集中」の実施により、連結営業黒字化を実現
- 事業ポートフォリオの分散による安定した収益基盤を整備

- エーアイ社合併による自社製品、輸入製品のクロスセル、ソリューション展開加速による収益力の強化
- セキュリティ、ソフトウェア品質向上支援ツールによるIoTセキュリティソリューションの事業展開
- 海外ベンダーとのパートナーシップの強化、次世代に向けた製品発掘とイノベーション開発

2017年3月期
計画：1,520(▲97)
実績：1,124(▲286)

- M&Aによる事業規模確保
- 収益化実現に向けた構造改革とM&Aによる組込みソフトウェアへの「選択と集中」

AIなど新技術発掘、新しいイノベーションに向けた研究開発

セキュリティ/品質向上支援ツールを中心とした事業強化と次世代コネクティビティ技術の開発、提供

自社製品、技術と海外商材のプロダクトミックス、
複合ソリューション展開と技術商社機能による商圏の拡大

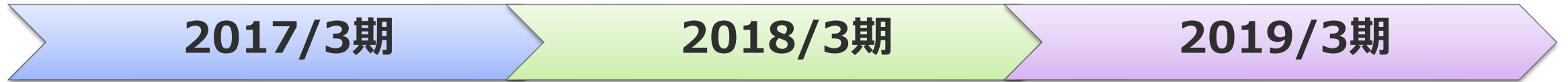
IoTクラウドプラットフォーム → IoTクラウドコネクティビティ

スマートエネルギー/スマートホーム → 機器のネットワーク化、セキュリティなどの高機能化と中心に対応

車載ネットワーク/システムの高速度化 + セキュリティ、認証ソリューションへの取り組み

2017/3-2019/3 事業マイルストーン

2社の「M&A」、事業の「選択と集中」、「構造改革」により、組込みソフトウェア事業へ注力、2016/3期比で**売上規模を2倍**、**4期連続営業損失**（2017/3期まで5期）から直近**2期連続営業利益計上**へ収益性向上を実現



2016/4

- ・ エイム買収
- ・ 売上：1,124百万円
- ・ 営業CF 黒字化

2017/4

- ・ エーアイコーポレーション買収
- ・ 売上：2,349百万円
- ・ 連結営業利益 黒字化
- ・ IoTプラットフォーム事業譲渡、構造改革を実施

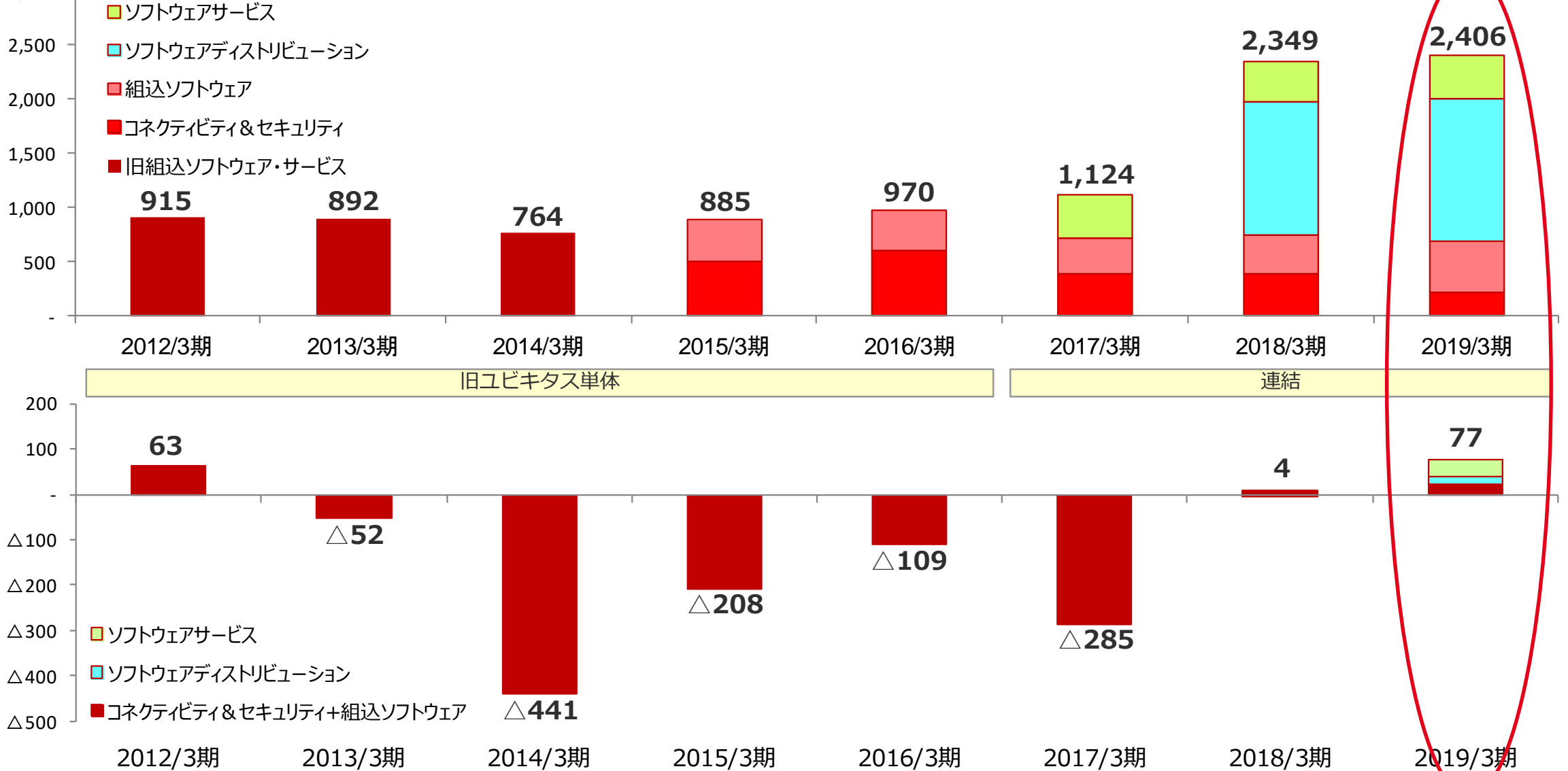
2018/7

- ・ 合併
- ・ 売上：2,406百万円
- ・ 連結当期利益 黒字化

売上高・営業損益の推移

(単位：百万円)

(注：2014/3期以前は、旧セグメントである為、一括表示しております。)



2017/3-2019/3 事業マイルストーン

安定した事業基盤・ビジネスモデル追加により、好不調の波が激しい自社プロダクト開発・販売のみでの展開から、事業ポートフォリオ増加と事業リスク分散を実現



Ubiquitous AI Corporation

組込みソフトウェアNo.1ベンダーとしての事業基盤強化を実現

組込みソフトウェア
製品企画・開発技術力



Ubiquitous

みらいをつなぐユビキタス

- ・事業企画・自社製品開発
- ・市場開拓
- ・製品販売・インテグレーション

コネクティビティ・高速起動・組込みデータベース製品が適用可能な市場への注力

海外組込みソフトウェア
目利き力が光る技術商社力



株式会社 エイコーポレーション

- ・海外製品仕入・販売
- ・技術サポート、ポーティング
- ・自社製品開発・販売

豊富な製品・取引先とユビキタスの製品開発により幅広い市場・顧客へのアプローチが実現

技術力と実績豊富な受託開発力



- ・エンジニアリング(受託開発)
- ・技術開発
- ・データコンテンツ制作、ライセンス

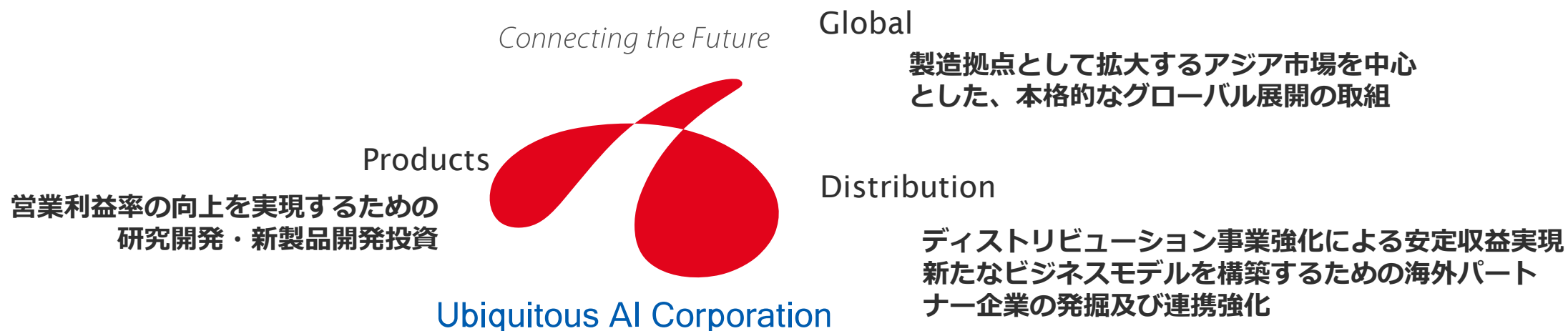
ユビキタスAIコーポレーションのフォーカス市場への拡大とデータコンテンツによる車載機器向け強化が実現

当社グループの事業方向性

「Global Embedded Company」を目指して

優れた組込みソフトウェア技術を軸に、グローバルパートナーとの
プロダクト（製品）・リソース（エンジニアリング）・チャンネル(販売)
共有により、事業拡大を実現する

2023年3月期 売上 3,000百万円/売上高営業利益率10%台 を目標



当社グループをとりまく事業環境と課題

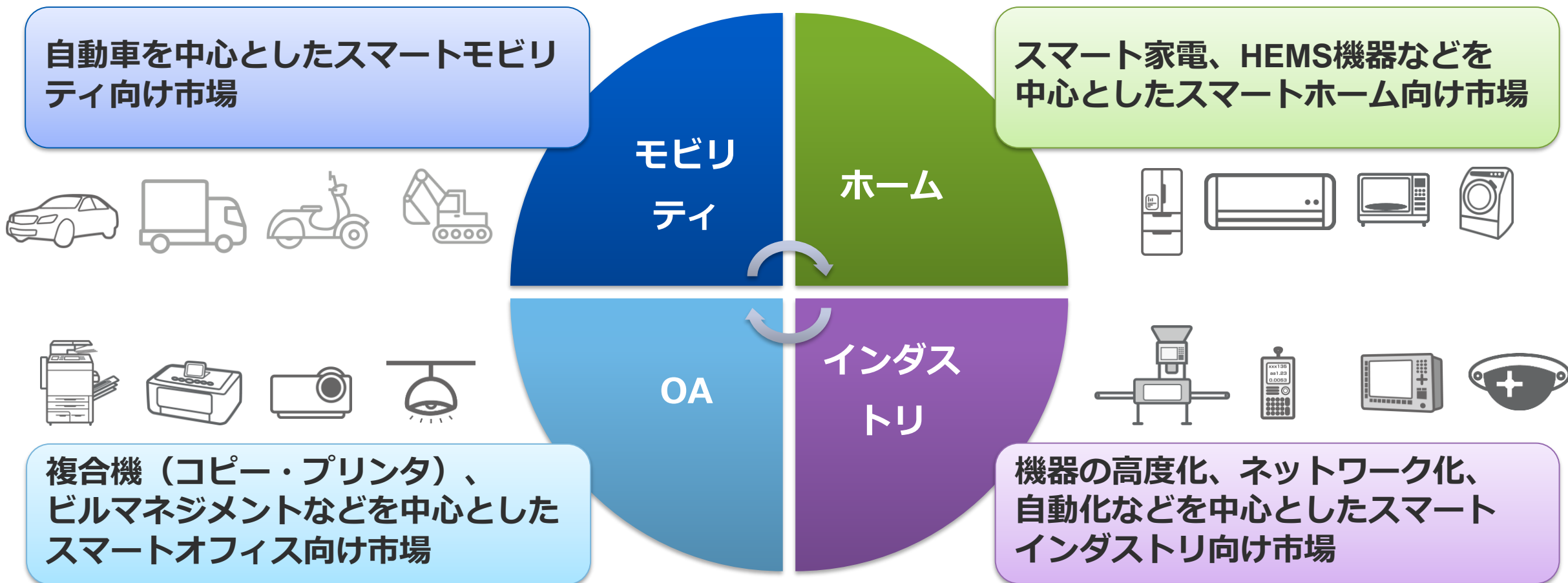
内 部 環 境	強 み	弱 み
	<ul style="list-style-type: none">事業ポートフォリオ技術力、商材数・バリエーションパートナーチャネル、取引先数、業歴（全事業通算で30年超）専門分野の技術知見・スキル（規格・半導体）	<ul style="list-style-type: none">クラウド・AI技術アプリ・サービス開発自社製品開発に要するコスト・期間営業力（アウトバウンドセールス）
外 部 環 境	機 会	脅 威
	<ul style="list-style-type: none">エンジニア不足専門領域に対する知見IoT拡大によるクラウドと組込みの異なる知見製品開発に要する期間の短期化開発規模の肥大化	<ul style="list-style-type: none">OSSの拡大半導体メーカーによるプラットフォーム・ソリューション化（クラウド）プラットフォームによるソリューションパッケージ化

当社グループをとりまく事業環境の変化

事業分野		Pros	Cons
ソフトウェア プロダクト事 業	高速起動	<ul style="list-style-type: none"> Linux, Androidの組み込み分野利用が進む 	<ul style="list-style-type: none"> プラットフォーム、半導体ベンダーによるプラットフォーム化
	コネクティビ ティ	<ul style="list-style-type: none"> IoT普及によるマーケット拡大 組み込みセキュリティニーズの拡大 	<ul style="list-style-type: none"> OSSの拡大 プラットフォーム、半導体ベンダーによるプラットフォーム化
ソフトウェア ディストリビューション事業		<ul style="list-style-type: none"> 商材数、バリエーション パートナーチャネル、取引先数、実績 	<ul style="list-style-type: none"> プロダクトライフサイクルへの対応 ビジネスモデル変化への対応 販売権消失
ソフトウェアサービス事業		<ul style="list-style-type: none"> 差別化されたメタデータ資産 強力なパートナー連携 	<ul style="list-style-type: none"> 音楽コンテンツビジネスモデルの変化 パートナービジネスモデルの変化

当社グループの取組方向性

IoTの普及に伴い、幅広い市場へアプローチを推進中



当社グループの取組方向性

各市場におけるビジネス機会の可能性

- ・CASEに伴い、様々なソフトウェアニーズ
- ・ドライブレコーダーなどLinux/Android活用拡大
- ・コネクティビティ化によるセキュリティニーズ



スマート
モビ
リティ

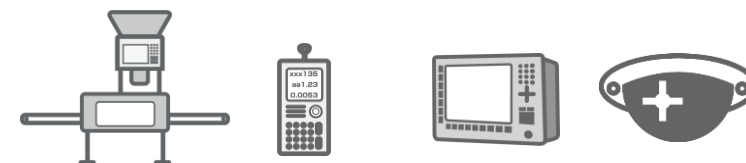
- ・スマートスピーカーの普及によるニーズの高まり
- ・クラウドサービスとの連携によるスマートホームの実現



スマート
ホーム



スマート
オフィス



スマート
インダ
ストリ

- ・機器のLinux/Android対応
- ・ネットワーク化による遠隔監視、効率化が進む

- ・世界各国の第四次産業革命にむけた取り組み（AIによる効率化など）によるネットワーク化の高まり
- ・ネットワーク化に伴うセキュリティ対応

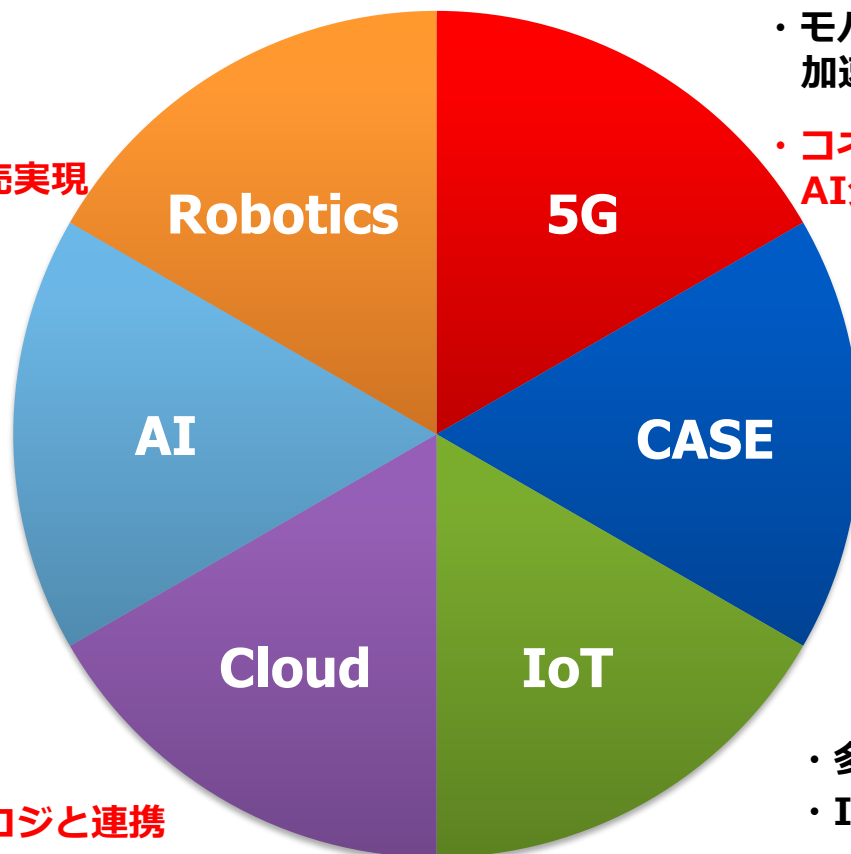
当社グループの取組方向性

テクノロジートレンドと当社取り組み方向性

- ・ 人手不足、効率化、技術革新で進化・普及
- ・ 他トレンドで必要な技術が全て活用
- ・ **開発・取扱製品の応用、顧客提案による販売実現**

- ・ NW帯域確保と半導体の進化でEdge AIが拡大、5Gで大容量データ処理が可能に
- ・ **Edge AI商材の獲得と、AIと連携したIoT機器側のソフトウェア開発**

- ・ IoT機器との連携によるサービス拡大
- ・ **プラットフォームのサービス・テクノロジーと連携したIoT機器向けソフトウェアの提供**



- ・ モバイルネットワークの高速化によりIoT機器の普及が加速、大容量コンテンツの扱いが容易に
- ・ **コネクティビティ・セキュリティ・マルチメディア・AI分野の商材**

- ・ 自動車の電子化・ネットワーク化が更に進み、インフラ側も同時に進行、ソフトウェアが重要に
- ・ **車載向け製品の更なる強化と、プロダクトミックスでの提案、カスタマイズによるソリューション化、顧客基盤を生かした販売拡大を狙う**

- ・ 多様な分野で拡大、分野毎に進む規格化
- ・ IoT機器側のセキュリティが重要に
- ・ **産業毎の通信・セキュリティ規格製品を展開**
- ・ **サービス含めたソリューションでの提供**

当社グループの取組方向性

注力製品カテゴリ・技術

コネクティビティ & セキュリティ

- ・IoTを実現するネットワーク・ワイヤレス技術
- ・エンドポイントセキュリティを実現するセキュリティ技術

ソフトウェア 品質向上支援ツール

- ・自動車を中心とした、開発規模の増大とIoT普及・ネットワーク対応によるソフトウェア開発効率と品質の向上、セキュリティ対策を強化する脆弱性の検証を支援する商材の強化とソリューション提供

高速起動・ハイブリット

- ・Linux/Androidの普及によるシステム起動高速化のニーズ高まりと、RTOSとのシステム連携
- ・Arm、x86対応による対応市場、ソリューション強化

AI・クラウド連携

- ・AI、クラウドと組み込みシステムの連携・組み込みシステム向けの実装に必要な技術の研究開発・製品提供
- ・AI、クラウド事業者との連携による製品企画

2020年3月期～22年3月期 中期経営目標

2022年3月期に売上高2,740百万円、営業利益150百万円を達成

- ・ 2020-21年3月期：収益の安定化と次の成長に向けた取り組み
- ・ 2022年3月期～：新規取り組み事業の利益貢献開始と拡大に向けた積極展開
- ・ 海外パートナー経由での自社製品販売の促進

中長期成長に向けた新規事業の立ち上げ

- ・ IoTセキュリティ分野における強みを活かし、パートナー連携によるサービス事業の事業収益化を目指す
- ・ 海外パートナーとの共同開発による短期間かつ開発コストを抑えた新製品投入

テクノロジートレンドに合致した新商材の投入による収益拡大

- ・ 5G、CASE、IoT、Cloud、AI、Robotics等のテクノロジートレンドに合致した新製品開発・新商材獲得による、収益機会の拡大を目指す

2020年3月期～22年3月期

中期経営目標

ユビキタスAIコーポレーション グループ 組込みソフトウェアNo.1ベンダーへ



※ 売上高（営業利益）
単位：百万円

**2021年3月期
計画：2,550（30）**

- 収益増を確実にするため、2020/3期からの施策継続による足場固め
- 2020/3期からの新規取り組みの売上貢献開始

**2020年3月期
計画：2,419（10）**

- 2021/3期以降の収益増実現のための施策実施（採用・商材獲得・研究開発）
- Edge Trust等新規取り組みのビジネス機会創出
- 事業間シナジー（組み合わせ提案、エンジニアリング連携、海外パートナーとの共同開発案件発掘）

**2022年3月期
計画：2,740（150）**

- 2020/3期から2021/3期の新規取り組みの利益貢献開始と、エイム社の、のれん償却終了に伴う営業黒字増
- 2023/3期に向けた事業展開の加速

**2023年3月期
売上高3,000百万円
営業利益率10%以上
を目指す**

テクノロジートレンドを意識した新製品開発・新商材獲得

5G

CASE

IoT

Cloud

AI

Robotics

**2020/3期、2021/3期：収益の安定化と次の成長に向けた取り組み
2022/3期：新規取り組み事業の利益貢献**

海外パートナーとの共同開発による短期間かつコストを押さえた製品投入

IoTセキュリティ検証サービス、「Edge Trust」等パートナー連携によるサービスの拡大

中期事業計画 事業分野別目標

ソフトウェアプロダクト事業 (コネクティビティ&セキュリティ、 組込みソフトウェア製品)

2022年3月期 売上高 700百万円

- ・高速起動製品を収益の核とした事業展開、車載機器を中心にLinux/Android搭載機器向けに幅広く展開、更なる高速化
- ・自動車・IoT分野を中心とした組込み機器向けネットワーク・セキュリティ関連製品の展開を、協業によるサービス含めて推進
- ・ソフトウェアディストリビューション事業での海外パートナーとの連携による共同開発、海外での販売

ソフトウェアディストリ ビューション事業

2022年3月期 売上高 1,580百万円

- ・海外組込みソフトウェア製品取扱増のための採用強化、人員増により売上拡大
- ・開発品質向上支援ツールの取扱強化、サービスも含めたサブスクリプションモデルによる安定した売上の確保
- ・海外パートナーとの共同開発による安定した販売権の確保と日本のニーズに合わせた製品化

ソフトウェアサービス事業 (グループ企業：エム社)

2022年3月期 売上高 460百万円

- ・車載機器メーカーを中心とした受託開発・音楽関連データコンテンツライセンス取引の継続
- ・Web・スマートデバイス向けから組込みまで幅広い範囲の対応により、安定した顧客との取引と、グループ連携による受託開発案件の獲得

組込みソフトウェアの高い技術開発力と、豊富な製品ラインアップ、テクノロジートレンドから売れる製品を獲得する目利きのかで、グループ全体で強かに推進

2022年3月期に連結売上高2,740百万円、営業利益150百万円
2023年3月期に売上高3,000百万円、営業利益率10%以上を目指す

2020年3月期 連結業績目標

■ 業績予想比

(単位：百万円)

	2019年3月期 (実績)	2020年3月期 (目標)	増減額
売上高	2,406	2,419	12
営業利益	77	10	△67
経常利益	101	10	△91
当期純利益	64	8	△56

– 次の成長への投資を行いつつ、黒字の定着化を目指す

- 売上はほぼ横ばいながら黒字確保を優先、3期連続の営業利益、2期連続の当期利益黒字を目指す
- 収益性が高まった高速起動製品と、ソフトウェアディストリビューション・ソフトウェアサービス事業の安定収益により利益を確保し、コネクティビティ&セキュリティの新製品・サービス事業化による収益性強化に向けた取り組みを推進
- 人件費、広告宣伝費の増加等により利益規模は減少

2020年3月期 事業目標

ソフトウェアプロダクト事業 (コネクティビティ&セキュリティ、 組み込みソフトウェア製品)

2020年3月期 売上高 615百万円

- ・自動車、IoT分野を中心とした組み込み機器向けネットワーク、セキュリティ関連ソフトウェア製品展開を推進
- ・セキュアなIoTサービスを実現するためのソリューション「Edge Trust」評価案件獲得
- ・高速起動製品の既存顧客からの継続ロイヤルティ売上、既存顧客の次期製品への継続採用拡大、車載機器以外の案件獲得推進、海外提携先と連携した海外企業向け売上拡大への期待
- ・更なる高速化に向けた研究開発等への取り組みと案件獲得のための人材獲得強化

ソフトウェアディストリ ビューション事業

2020年3月期 売上高 1,369百万円

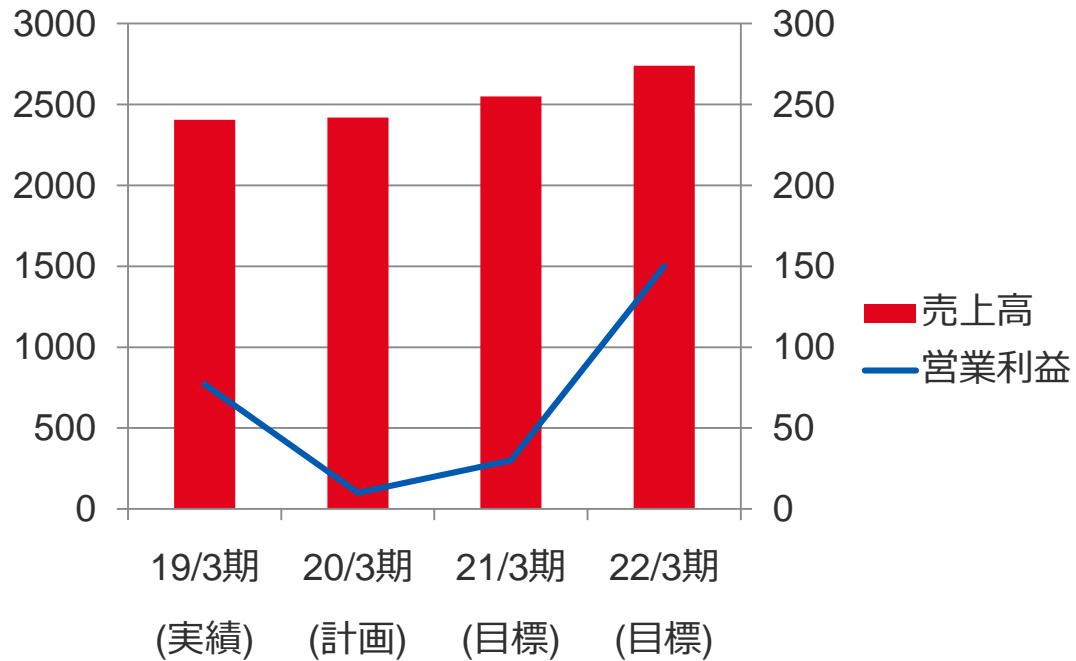
- ・ソフトウェア品質向上支援ツールの販売強化
- ・Beyond Security社と共同開発した新検証ツール「beSTORM X」を利用し、当社の各種プロトコル開発経験・知見を合わせた「IoT機器のセキュリティ検証サービス」販売に注力
- ・人材強化による新商材獲得体制強化と、継続的な新商材確保による収益基盤強化

ソフトウェアサービス事業 (グループ企業：エム社)

2022年3月期 売上高 440百万円

- ・Gracernote社との協業関連継続と新規企画検討
- ・既存顧客との取引を中心に、新規安定顧客の獲得による受託開発売上の確保
- ・受託開発売上増加の実現のための開発体制強化

数値目標 – 利益計画（連結）

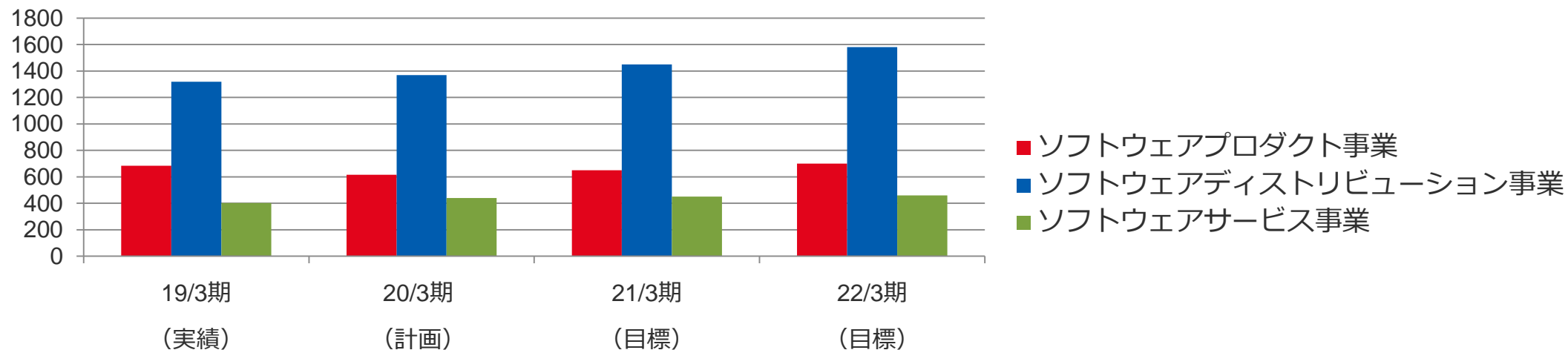


- 2021/3期より増収傾向
- 2021/3期 株式会社エイムののれん償却終了
- 2022/3期 旧株式会社エーアイコーポレーションののれん償却終了

(単位：百万円)

	2019/3期 (実績)	2020/3期 (計画)	2021/3期 (目標)	2022/3期 (目標)
売上高	2,406	2,419	2,550	2,740
営業利益	77	10	30	150

数値目標 – セグメント別売上高内訳



(単位：百万円)

セグメント	分野	2019/3期 (実績)	2020/3期 (計画)	2021/3期 (目標)	2022/3期 (目標)
	ソフトウェアプロダクト事業	684	615	650	700
	ソフトウェアディストリビューション事業	1,319	1,369	1,450	1,580
	ソフトウェアサービス事業	403	440	450	460
	合計	2,406	2,419	2,550	2,740

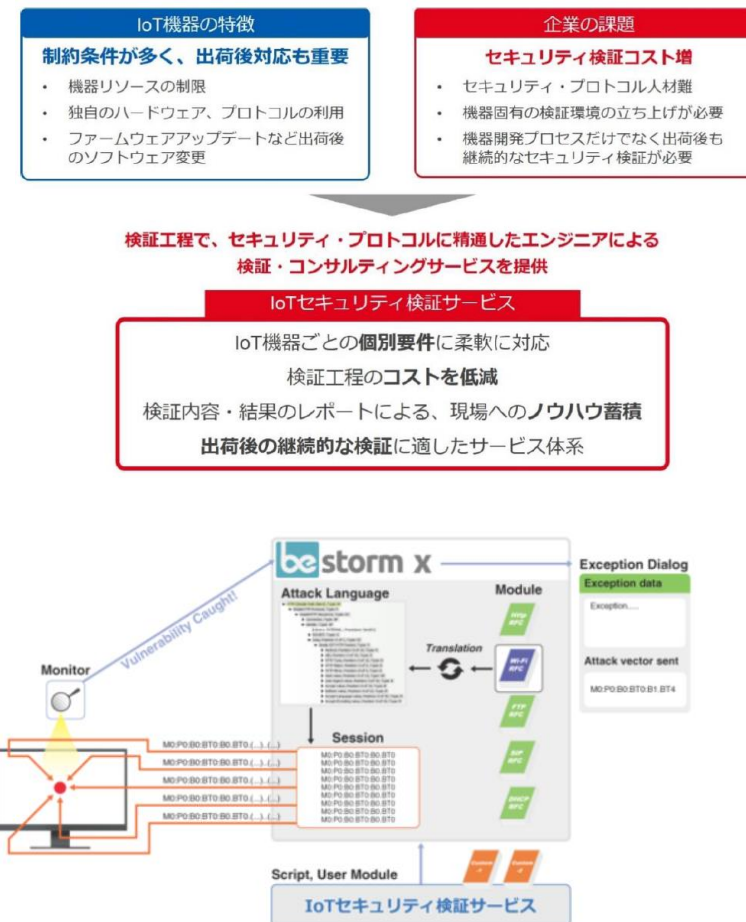
新規事業取り組み トピックス (3)

IoTセキュリティ検証サービス - サービス事業への取り組み

■ IoT機器メーカーのセキュリティ検証を支援する「IoTセキュリティ検証サービス」

- IoT機器メーカーの機器のセキュリティ検証に必要な、「機器に応じた検証環境構築」「検証実施」「レポート作成」までの全行程をカバーする「IoTセキュリティ検証サービス」の提供を、本製品と当社の各種プロトコルの開発経験・知見の組み合わせにより、新たな取り組みとして開始
- IoT機器のセキュリティ検証ニーズが高まる一方で、セキュリティ・プロトコル人材が不足し自社で検証困難な取引先をターゲットとし展開

■ 2019年4月よりサービス販売開始



新規事業取り組み トピックス (4)

「Ubiquitous Voice Service Connect」製品化

- Amazon Alexaとの通信を可能にして、スマートホーム機器などにクラウドベースの音声サービス機能搭載を実現する、「Ubiquitous Voice Service Connect」を製品化、2019年9月より販売開始予定
 - MCU（マイコン）向けに音声入力インターフェースとスピーカから構成される音声ハードウェア（Audio Front End）と連携し、簡単かつ省リソースでAmazon Alexaとの通信が可能
 - 既存のソリューションではコードサイズ、電力消費により実現が難しかった、身の回りのあらゆる機器へのAlexa搭載を可能とし、音声サービス提供を実現するソリューション
 - オン・セミコンダクターのArm® Cortex®-M3をベースとしたオーディオ処理LSI（LC82345xシリーズ）と、村田製作所社のWi-Fi+Bluetooth対応モジュールType1MWを組み合わせたリファレンスデザインに採用、2019年9月からオン・セミコンダクターより提供開始予定



Q&A

Connecting the Future



Ubiquitous AI Corporation